【公表の参考様式（管理機関用）】

令和7年8月4日

令和6年度　特別の教育課程の実施状況等について

東京都		
学　校　名	管理機関名	設置者の別
昭和女子大学附属昭和小学校	学校法人　昭和女子大学	私立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学　校　名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
昭和女子大学附属 昭和小学校	https://es.swu.ac.jp/

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学　校　名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
昭和女子大学附属 昭和小学校	https://es.swu.ac.jp/	https://es.swu.ac.jp/

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1)特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

⊙ 計画通り実施できている

・ 一部、計画通り実施できていない

・ ほとんど計画通り実施できていない

(2)実施状況に関する特記事項

特記事項なし

(3)保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

⊙ 実施している

・ 実施していない

＜特記事項＞

特例校として、国際コースにおける英語イマージョン教育、Cambridge international curriculum、探究コースにおける、総合学習を柱とする探究的な学習の実施による、主体的で対話的な深い学びの実践を行い、本校の教育内容と併せて広く情報発信をしている。

4. 実施の効果及び課題

(1)特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本校では、建学の精神「世の光となろう」のもと、国際化、多様化する社会でたくましく活躍できる力の育成のため「Lead yourseif ～自分リーダーシップ～」を掲げている。その目標から、5つの資質・能力「自分づくり」「コミュニケーション」「思考力」「表現力」「持続チャレンジ」を柱とし、主体性を育む資質・能力ベースの学校づくりを行っている。本特例において、より主体的で探究的な学びを実践する「探究コース」、グローバル社会にいきる英語教育で、世界基準の力の基準を養う「国際コース」を編成し教育活動を行っている。

【探究コース】

探究コースでは、常に児童が「知りたい」「調べてみたい」という「問い」をもち、自ら活動し解決していく学びを展開している。各教科と連携した「探究的な学び」によって、児童が「言葉」と「体験」を往還することで、自分の興味関心に基づき「主体的な自分の学び」を創り出すことができるようになってきている。

また、5つの資質・能力が最大限に発揮される学習として「総合学習(昭和っ子の研究)」を設定している。日々の生活から生まれるさまざまな「問い」に対して、「つかむ」「楽しむ」「豊かにする」「つくりだす」といった探究サイクルを意識しながら学習を展開している。学習過程で友達と協働的に学ぶ工夫や、考えをまとめて発表する「探究フェスタ」「昭和っ子の研究報告会」の経験を重ねることで、「表現力」も身についてきた。自分の興味関心にあわせて、テーマに没頭する経験を通して、あきらめずに追求する「持続チャレンジ」の力も育っている。児童の主体的な学びを導くための学習環境の工夫も行っている。

【国際コース】

国際コースでは、グローバルな社会に活きる英語教育で、世界標準の英語の力の基礎を養うために6割以上を英語で学ぶイマージョン教育を展開している。国語、道徳、一部の特別活動以外は、外国人教員が英語で学習を進め、算数は、英語版の教科書を使用し、テストやワークシートもすべて英語で行った。国語・日本語による言語活動の充実についても、朝の10分間のモジュールタイムでひらがな、片仮名、漢字学習を行ったり、読み聞かせや言語活動などを行ったり、国語の基礎学力の定着などを図った。

昨年度12月に TOEFL Primary®テストを受験し、児童一人ひとりの英語力を客観的に把握するとともに、日々の英語指導に活かしてきた。今後も継続的に英語力を測るテストを実施し、その結果を指導の充実・改善に活用していく方針である。

また、近隣の大学(TUJ)との交流も年2回行い、大学構内でスカベンジャーハントをしたり、大学生と交流したりした。

参観日では、英語で「Presentation of what you can now do」を行い、自分のできることを英語で発表した。児童同士の英語で会話することが増え、着実に英語の力がついてきている。

児童の「聞く力」については全体的に着実に育ってきている。今後は、児童それぞれの表現力や理解の深さにやや違いが見られるので、個々に応じた丁寧な支援が必要だと感じている。

(2)学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本特例の実施により、「国際コース」「探究コース」の教育内容の充実を図っている。

〇「探究コース」

今後進む AI 社会に必要な資質・能力(自ら学び、考え、行動し、さらに興味のあることを見つけて学ぶ力)の基礎を養うべく、探究的な学びの場となる総合学習(体験学習)にさらに力を入れた。具体的には、1年生から探究学習の時間(昭和っ子の研究)を設けるなど、体験学習を通した学習を展開している。そして、一人ひとりに「問い」立てて探究的に学ぶ姿勢や習慣を身につけさせ、6年間かけてじっくりと主体的かつ探究的な学びができる児童を育成する。

さらに「探究コース」でも英語教育に力を入れている。1、2年時に外国語活動の学習2時間に加え、音楽、図工、体育のそれぞれ1時間を専科教師と英語教師の二人で授業を行い英語に触れる機会を増やし、中学年からは、他教科との連携学習を進め、高学年では英語4技能のスキルを高めることと同時に、英語でのプレゼンテーションなど表現活動ができるようにしている。

〇「国際コース」

グローバルな社会に活きる英語教育で、世界標準の力の基準を培うため、新1年生から新たに「国際コース」を開設し、英語によるイマージョン教育を推進している。当校のある世田谷区には、幼児教育機関としてのプリスクールが多い現状がある。幼児教育から続けて学びたいという多くの家庭の思いと、一条校への期待を背景としながら、グローバル時代における英語教育の必要性が求められている現状を考え、授業の約6割を英語で学習している。

また、1年生、2年生、3年生は週4時間、4年生、5年生、6年生は週3時間の英語を学ぶ時間を設け、日々英語に触れ、学ぶ時間(機会)の充実を図っている。

5. 課題の改善のための取組の方向性

今後の重点として、以下の取り組みを進めた。

「探究コース」

(1) 「言葉と体験」の往還を重視し、STEAMS 教育を進める

より充実した体験を行えるよう、「生活科」「昭和っ子の研究」を中心としたカリキュラム改善を行った。これにより、身近な活動が充実され、児童の主体的な探究の学びが推進されている。また、体験を通して児童の気づきの質が高まり、対象物に対しての愛着をもつことができ、その思いや願いを言葉で表現しようとする児童が増えた。

（2） e-MAP や他教科連携で英語教育を充実

音楽、図工、体育の授業と英語の連携により、週5時間の英語環境を整えることができている。英語に触れる機会が増えることで、児童の英語に対する関心が高まり、学ぶ意欲が向上している。

（3） 総合学習「昭和っ子の研究」をさらにアップデート

1年生のテーマを「生き物探究」とし、幅広い生き物を対象として探究的な学びを進めている。児童が自分の選んだ対象物に没頭することで、深い学びにつながっている。

「ペンギン」を通した実践では、北海道の動物園とオンライン授業を実施したことで、ペンギンの特徴について学ぶことができた。また、「虫」を通した実践では、プログラミング技術をいかして、「虫ロボット」づくりに取り組み、虫の特徴や動きをロボットで再現することができた。「昭和っ子の研究」と各教科が柔軟に連携することで、児童の創造力が向上している。

（4） 宿泊・体験学習や行事を通して、非認知能力を育成する

本校の考える5つの資質・能力を柱とし、宿泊・体験・行事を実践している。児童が主的に「ひと・もの・こと」に関わることで、児童が成長を実感できるようにしている。

宿泊学習では集団生活や役割分担を通して協働性を高めたり、遠足では仲間と支え合いながら困難を乗り越えたりする経験を重視し、粘り強さと達成感を育んでいる。

いずれの活動も、教師の肯定的な声掛けによって、非認知能力の向上を支えている。

「国際コース」

（1） 英語によるイマージョン教育

英語によるイマージョン教育は、6割以上を英語で学ぶことができ、英語によるイマージョン教育を行うことができた。算数は、英語版の教科書を使用し、テストやワークシートもすべて英語で行った。生活、音楽、図画工作、体育もすべて外国人担任が英語で指導した。今後は、英語の教育課程をより一層充実させることで英語の力を伸ばしていけるようにする。

（2） 国語・日本語による言語活動の充実

国語・日本語による言語活動の充実については、モジュール（朝の10分間の学習の時間） タイムでひらがな、片仮名、漢字学習を行ったり、読み聞かせや言語活動などを行ったりすることで国語の基礎学力の定着を図った。また、七夕集会、席書会、かるた大会、文化行事など日本文化についても教養を深めることができた。

（3） 卒業までに CEFR-B1（英検2級相当）の取得を目指す

卒業までに CEFR-B1（英検2級相当）の取得を目指すについては、については、12月に TOEFL Primary®テストを受験し、言語の習得状況を把握し、指導方法の評価にも役立てている。

（4） 昭和ボストンをはじめとする、海外体験の実施

昭和ボストンをはじめとする、海外体験の実施については、近隣の大学（TUJ）との年2回の交流を行った。今後は、高学年で海外研修を計画中である。